

令和元年度第1回広島県県営林管理経営評価委員会 議事録

1 日時

令和元年8月28日(水) 14時00分から16時30分まで

2 場所

広島市中区基町10-52 本館6階601会議室

3 議題

第1号議案 平成30年度県営林年度実施計画の達成状況について

4 担当部署

広島県農林水産局森林保全課(県営林経営改革担当)

電話 082-513-3694(ダイヤルイン)

5 会議の内容

(1) 開会

①林業振興部長あいさつ

②委員会の成立

委員全員の出席を得ており、広島県県営林管理経営評価委員会運営要綱第4条第3項の規定により委員会が有効に成立していることを報告

(2) 議事

事務局から第1号議案について内容を説明

審議の結果、諮問のとおり承認

6 議事審査の内容

別紙のとおり

7 会議資料

(1) 第1号議案 資料1「平成30年度県営林年度実施計画の達成状況について」

(2) 第1号議案 資料2「平成30年度県営林年度実施計画と実績」

別紙 議事審査の内容（委員からの主な質問・意見） （○：質問 ●回答 ◎意見）

- ◎ 平成 30 年度事業の達成状況について、全体として色々な面で改善していると思う。
- 直接協定取引で、製材工場と集出荷施設を考えたとき、販売単価はそれぞれどのような形で決まるのか。
- 製材工場と直接協定取引をする場合は、中間土場で仕分けを行い、直材、小曲材は製材工場等に、曲材は LVL 工場に販売することが多い。
集出荷施設へは、基本的には選別（仕分け）を行っていないため、曲材を含めた販売単価となっている。
また、運賃を負担する集出荷施設もあり、販売単価が低くても、運搬コスト等を補正すると、他と互角の金額で取引されている場合もある。
- 生産性（10.2 m³/人・日）が飛躍的に伸びた理由は何か。
- 事業の早期発注に取り組んだ結果、積雪期の施業が少なくなったことなどから作業が効率化され、生産性が上がったと考えている。また、全体的に業者のレベルがアップしてきたと考えている。
- ◎ 生産性の調査にあたっては、径級や樹高も考慮して分析することを検討していただきたい。
- 平成 30 年度の立木販売単価（約 190 万円/ha）は、平成 29 年度（約 150 万円/ha）と比較して高いが、背景が分かれば教えていただきたい。
- 平成 30 年度は約 190 万円/ha と高い金額で販売しているが、今年度に西部地域でバイオマス発電所の建設が見込まれていたことや、西部地域での入札が多かったことなどから、競争が働いたと考えている。
- 素材生産量が計画を下回ったのに、経常利益を確保できた理由は何か。
- 素材生産量の減少割合に比べて、売上の減少を抑えたことが大きいと考える。また、昨年度は相場が若干良かったことに加え、業務の委託先が販売努力をした影響も多分にある。